地震にどう備えるか？

大地震の発生に備えて、建物や土地の安全性など、私たちの身のまわりにどんな危険箇所があるのかをチェックし、事前に安全対策をしておきましょう。建物の耐震化や家具の転倒防止対策は、私たちの命を守る最も有効な手段です。

わが家の耐震対策のススメ

プロジェクトTOUKAI－0（ゼロ）（東海・倒壊）

『プロジェクトTOUKAI（東海・倒壊）－0（ゼロ）』は、昭和56年5月31日以前に建設された木造住宅の耐震化を促進し、震災時における人命の安全を確保するため進めている事業です。

専門家による無料の耐震診断や、耐震補強工事費の助成を行っています。

耐震補強工事までの流れ

専門家の耐震診断（無料）

専門家（耐震診断補強相談士）による耐震診断を無料で受けることができます。電話またはまちづくり課でお申込みください。

補強計画の作成＋耐震補強工事

工事箇所、工事費を検討して、補強計画を作成します。
補強計画に基づき、耐震補強工事を実施します。

【補助額】一般世帯…100万円　高齢者等世帯…120万円

※ 補助金交付前に設計等に着手すると、交付金がもらえないのでご注意ください。

ブロック塀の改善に対する補助（令和2年～令和3年度）

危険なブロック塀を撤去

地震発生時に倒壊、または転倒する危険性のある道路等に面したブロック塀等を撤去します。

【補助限度額】30万円

※ブロック塀等を撤去する経費の額と、基準額20,000円/mに撤去するブロック塀等の長さを乗じて得た額とを比較して、いずれか少ない額とし、1敷地につき30万円を限度とします。

撤去後に軽量なフェンス等を設置

地震発生時に倒壊、または転倒する危険性のある道路等に面したブロック塀等を安全な塀に改善します。

【補助限度額】40万円

※ブロック塀等を改善する経費の額と、基準額38,400円/mに改善するブロック塀等の長さを乗じて得た額とを比較して、いずれか少ない額の4/5以内の額とし、1敷地につき40万円を限度とします。

この制度を利用するには事前の申請が必要です。　問い合わせ先　まちづくり課 ☎86-6424

大地震に備え、家具などを固定しましょう

過去の地震において、家具の転倒等により多くの死傷者が出ました。熱海市では、地震における被害の防止と軽減を目的とし、タンス、食器戸棚など家具の転倒を防ぐため、家具を固定する費用を補助しています。

熱海市自主防災会連合会や民生委員を通じて、希望者の募集をします。

補助対象　木造住宅にお住まいの市民　　**取付費用**　無料

取付内容　寝室・居間及び台所等に設置　　※家具と壁を直接固定するため、穴が開く可能性があります。

この制度を利用するには申請が必要です。　問い合わせ先　危機管理課　☎ 86-6443

家の中の安全対策ポイント

家の中には地震のときに危険となるものがたくさんあります。室内の家具が倒れ、いざ避難しようとしたときに家具が出入り口をふさぐようなこともあり、日ごろから家具を固定するなどの安全対策が必要です。できることから実践し、たえず見直しながら安全を高めていきましょう。

■ 家の中に、家具のない安全なスペースを確保する

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるように配置を換える。

■ 寝室や子ども・高齢者・障がい者がいる部屋には、倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生した場合、子どもや高齢者、障がい者などは倒れた家具が妨げとなって逃げ遅れる恐れがあるので注意する。どうしても置かざるを得ないときには食器棚や家具、テレビなどは固定する。

■ 出入り口や通路にはものを置かない

いざというとき安全に避難できるように、玄関などの出入り口やそこに至る通路には倒れやすいものを置かない。

■ 家具の転倒や落下を防止する対策を講じる

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすくて危険。また、家具の上に落ちやすいものを置かない。

寝室や出入り口付近で家具を固定できない場合には

寝ている位置に家具が倒れてこないように、向きを工夫する

自分の上に家具が倒れてこないように、机などで防御する

家具が倒れてもドアが開くような位置・向きにする

「家庭内DIG」で災害対策

「DIG（ディグ）」とは、参加者が大きな地図を囲み災害時の対策などを考える訓練のことです。各家庭でも「家庭内DIG」を行って、地震など災害時の対策を考えておきましょう。自宅の簡単な平面図を用意し、各部屋や家の周囲の危険箇所をチェックして対策を話し合いましょう。また、災害後の電気・ガス・水道などが不自由な状態で暮らす準備についても考えておきましょう。

熱海市の被害想定

レベル１の地震

発生頻度が比較的高く（駿河・南海トラフでは約 100 ～ 150 年に１回）、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波

レベル２の地震

発生頻度は極めて低いが、発生すれば莫大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波

熱海市の被害想定

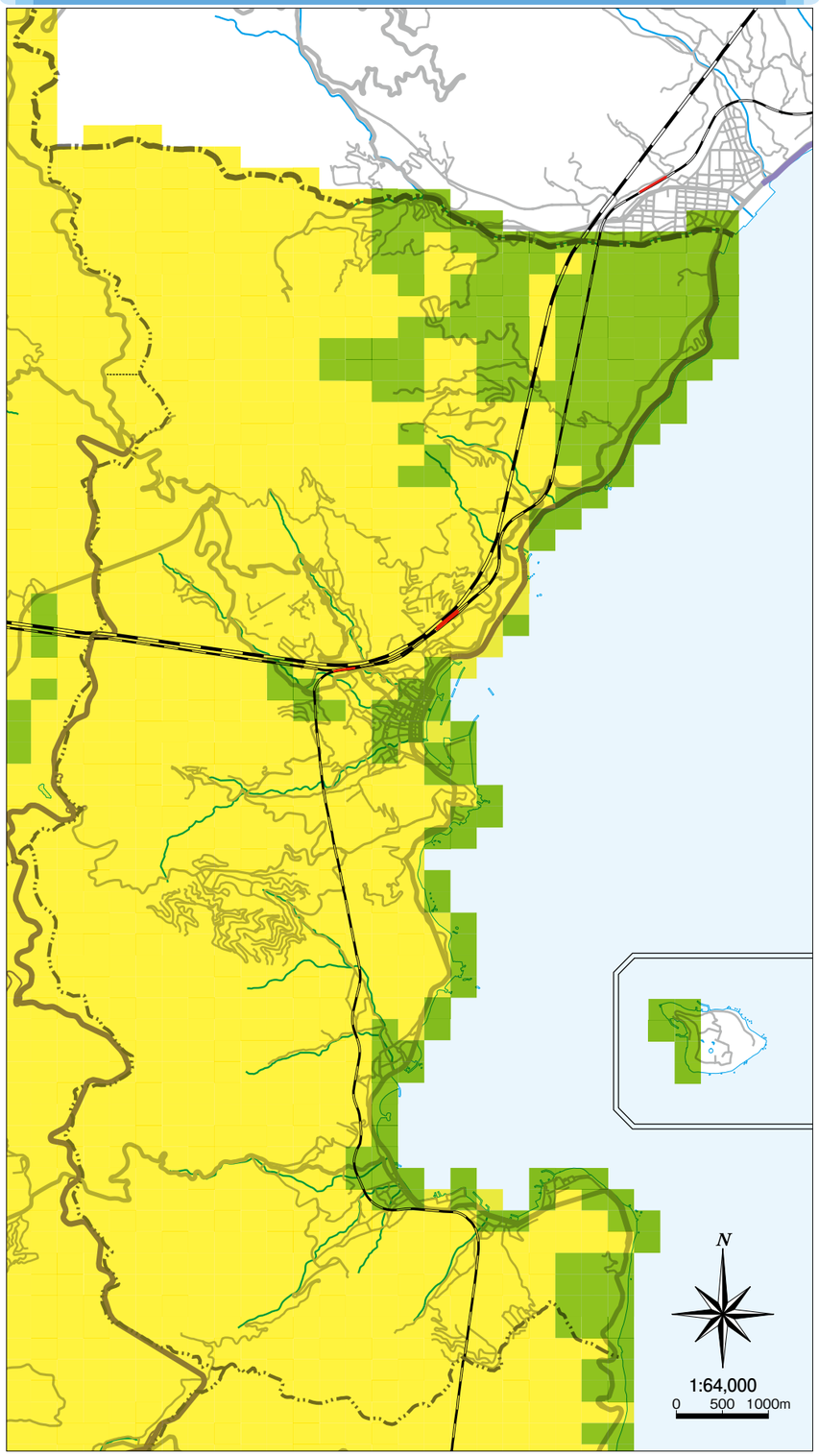
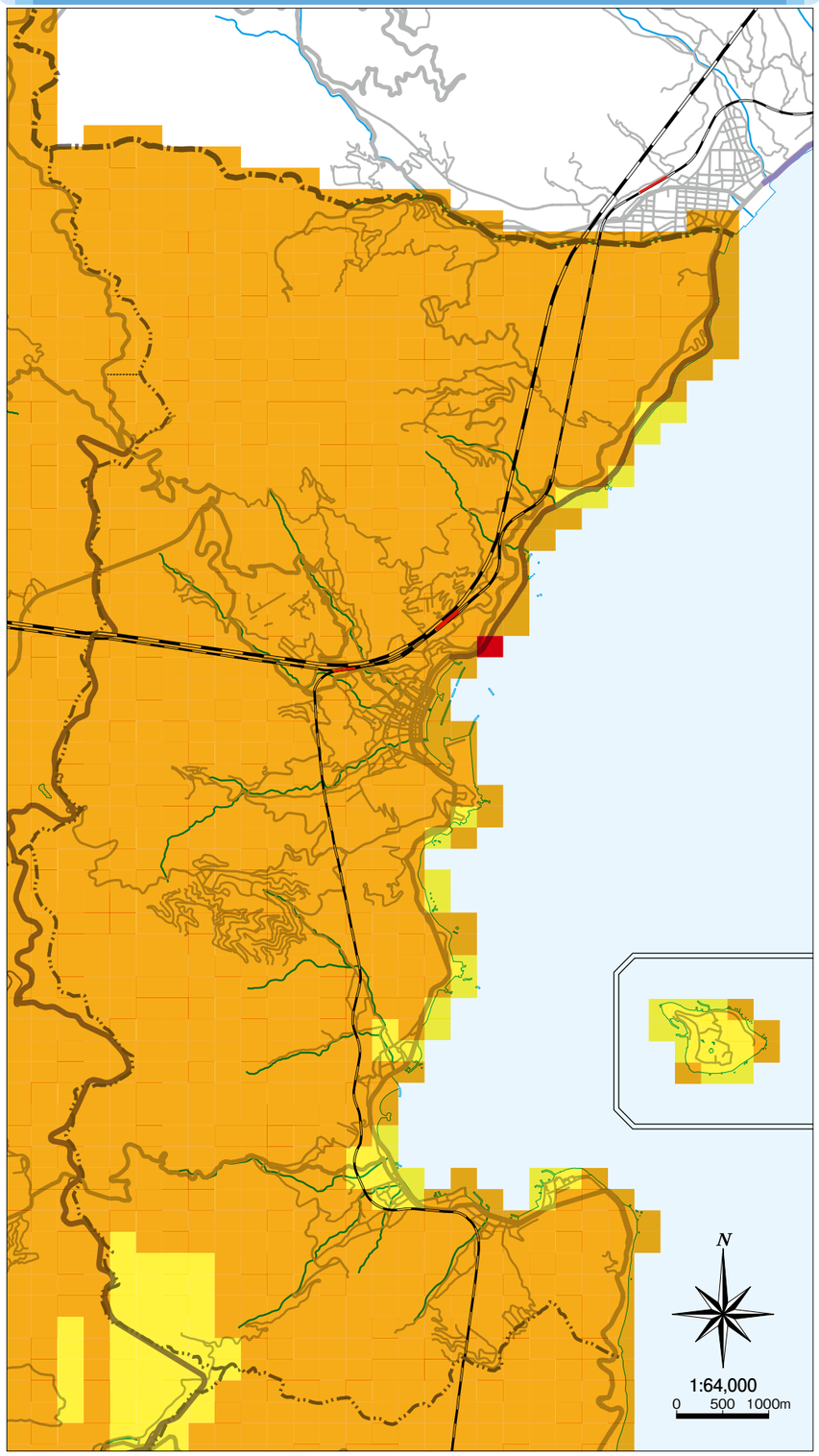
第４次地震被害想定の概要	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震	
	レベル１	レベル２
想定対象地震	東海地震 東海・東南海地震 東海・東南海・南海地震	南海トラフ巨大地震
最大震度	６弱	６弱
人的被害（死者数）	約 10 人	約 60 人
建物の全壊・焼失棟数	約 70 棟	約 200 棟

第４次地震被害想定の概要	相模トラフ沿いで発生する地震	
	レベル１	レベル２
想定対象地震	大正型関東地震	元禄型関東地震 相模トラフ沿いの最大クラスの地震
最大震度	６強	７
人的被害（死者数）	約 1,400 人	約 1,900 人
建物の全壊・焼失棟数	約 2,500 棟	約 4,300 棟

凡　例

色別	震度階級	人間	屋内の状況
	７	揺れにほんろうされ、自分の意思で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。
	６強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。
	６弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。
	５強	非常に恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	棚にある食器棚、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。

南海トラフ巨大地震震度分布図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震震度分布図